

J A 北蒲みなみ自己改革工程表（平成28年度～30年度）

3年後の成果目標

- | | | |
|------------------------|------------------------------------|----------------------|
| ①重点農家のデータベース化・カルテ作成・導入 | ④インショップ販売品取扱高 5%アップ(5,100万円) | ⑦地域活性化活動参加成人人数 30名以上 |
| ②反収の増加 30kg/10a | ⑤精米取扱数量の増加 70t/年 | |
| ③新規 園芸導入農家数 15戸 | ⑥物流コストの削減 自己取数 年1,000袋アップ(15,000袋) | |

成果目標実現に向けた 重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程(実施具体策・到達目標)				責任部署
		現状	1年目	2年目	3年目	
J A 事業機能の総合力を発揮し、農業の展開を支える事業の増大、地域とくらし	農業生産法人・集落営農組織・大規模農家との信頼関係の構築、経営管理・販売・資金融資支援等 J A 全体での総合サポートを行う。	○生産農家の高齢化 ○機械施設の共同利用 ○法人化が進まない	○重点農家のニーズ把握 ○重点農家のデータベース化	○重点農家のカルテ作成 完成度	○コスト低減提案導入・実現件数	営農渉外課
	評価指標：—	—	目標：100%（実績：100）	目標：100%（実績： ）	目標：20件（実績： ）	
	達成度及び評価		重点農家80名を選定しデータベース化は完成した。法人設立提案6件は継続協議。			
	安全安心高品質の栽培指導だけでなく、コスト低減や収量確保を意識した栽培指導を行う。	○慣行栽培の継続的な実施	○実証結果に基づく検討	○低コスト・高収量技術の確立	○普及・拡大	営農企画課
	評価指標：10a当り増収量	—	目標：10kg（実績： ）	目標：20kg（実績： ）	目標：30kg（実績： ）	
	達成度及び評価		県下統一肥料の比較試験を行い慣行肥料同等の結果を確認した			
農産物の品質向上と環境保全・生産コスト低減に資する生産資材の提供と大規模担い手等の対応強化。	○資材直送利用者・自己取りの低迷	○担い手直送利用者 年間2件の増加 ○予約自己取の拡大 ○購買窓口の相談機能強化			購買課	
評価指標：予約自己取年間数量	12,000袋	目標：13,000袋（実績：12,865）	目標：14,000袋（実績： ）	目標：15,000袋（実績： ）		
達成度及び評価		新たな直送利用者2件を確保。予約自己取りの数量は目標に届かず。予約対象品の24%（目標20%）は確保できており、一発肥料への移行が進んでいることが要因である。				
成果目標実現に向けた 重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程(実施具体策・到達目標)				責任部署
		現状	1年目	2年目	3年目	
園芸生産の拡大と提案	新規園芸導入農家数15戸を目指す。	○生産者の高齢化、世代交代が停滞 ○稲作農家の複合化停滞	○園芸導入候補者のリストアップ ○園芸情報発信（広報誌等を活用年5回）			営農企画課
	評価指標：新規園芸導入農家数	—	目標：5回（実績：5回）	目標：7戸（実績： ）	目標：8戸（実績： ）	
	達成度及び評価		導入候補者リストを3月に作成し提案活動を行った。園芸情報は計画通り発信した。			
	予冷センターと連携し、インショップ販売高増加による現金収入の確保と生きがいの創造を支援する。	○インショップへの販売品目がまだまだ少ない。 ○予冷センター取り扱いの低迷	○関係組織（普及C、市、予冷C）との連携 ○栽培品目の提案活動（指導会・研修会・実績検討会年：2回開催）			販売流通課
評価指標：青果販売品販売高（インショップ分）	4,844万円	目標：5,027万円（実績：5,389万円）	目標：5,060万円（実績： ）	目標：5,100万円（実績： ）		
達成度及び評価		単価が良好に推移し販売目標は達成した。また、研修会・実績検討会は計画通り開催した。				
成果目標実現に向けた 重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程(実施具体策・到達目標)				責任部署
		現状	1年目	2年目	3年目	
実需との結び付き強化のための販売展開の継続性のある販売展開	市場ニーズを的確にとらえ、買ってもらうものを生産し、新たな付加価値を付けて販売する戦略を強化する。	○年々米の販売高は減少している。 ○PB米18.5t 学校給食34.0t 計52.5t	○取引先との情報交換 ○新たな付加価値化の検討 ○地産地消拡大の取り組み	○取り組みの普及活動の展開		販売流通課 購買課
	評価指標：精米取扱数量	年間52.5t	目標：58.0t（実績：39.0t）	目標：64.0t（実績： ）	目標：70t（実績： ）	
	達成度及び評価		米券の取り組みが不可能であったことが、数量未達の要因である。			
	実需者の期待に応える数量確保と品質管理の徹底。	○実需者からの産地指定による直接取引の要望が年々拡大。	○集荷積み上げ運動の展開 ○指導部署との連携 ○民間検査員の技術向上			販売流通課
米の取扱数量	160,815俵（契約数）	目標：162,800（実績：160,869）	目標：164,800（実績： ）	目標：167,000（実績： ）		
達成度及び評価		契約数は前年並みであったが、作柄により集荷実績は契約対比110%であった。				

成果目標実現に向けた 重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程(実施具体策・到達目標)				責任部署
		現状	1年目	2年目	3年目	
化「協同活動」への貢献 の 実践による「地域活性化」	組合員・地域住民の願いやニーズに応える「協同活動」の実践。	具体的な取り組み未実施	○プロジェクトの立上げ、活動の周知 ○組合員・地域住民の願いやニーズの把握 ○役職員の地域イベントへの積極的な参加	活動開始 →		企画審査課
	評価指標：地域活性化イベントの参加		目標：10名（実績：42名）	目標：20名（実績： ）	目標：30名（実績： ）	
	達成度及び評価		7月理事会で「協同活動プロジェクト会議」を立ち上げ、活動の計画策定と実践を行った。 職場内報「メモリ通信」を発行しJA内に活動を周知している。 各種地域イベントに延42人の役職員が参加。地域住民へのアンケートを行い、今後の事業に反映させることとした。 また28年度は実施できなかったが、組合員の意向を把握するため、組合員アンケートを29年度に行い、「協同活動」の施策の策定・実践につなげることとした。			